センターだより

第68号

令和4年10月31日 発行

Aomori Prefectural School Education Center

青森県総合学校教育センター

〒030-0123　青森市大字大矢沢字野田80-2

☎017-764-1997FAX017-728-6351

2年目研究員研究特集

あおもり教育研究発表会２０２２のお知らせ

と　き：令和４年１１月１８日（金）　　ところ：青森県総合学校教育センター

９：００　受付開始
９：３０　開会行事
９：４０　センター研究発表（教科・科目等のＩＣＴ利活用）
１０：３０　２年目研究員研究発表
１２：２０　昼食・休憩
１３：２０　ＩＣＴ活用実践発表
　　つがる市立森田小学校　教諭　前多　昌顕　氏
１４：１０　ＩＣＴ活用に関する講演
　　放送大学　教授　中川　一史　氏
１５：１０　終了

令和３年度の様子

【2年目研究員研究発表Ⅰ】10:30～11:00

発表会場	研究テーマ	発表者
大研修室（１階）	**①小学校高学年の対人関係の適応感を高める研究** －「他者とよりよく関わる力育成プログラム」の作成と実践を通して－	髙田　秀行
中研修室（２階）	**②自立活動の時間における指導を核とした「知的障害のある児童の感情理解を促す指導」に関する研究** －対人関係面に課題のある特別支援学級在籍Ａ児への授業実践を通して－	佐々木　明子
CAD・CG研修室（３階）	**③小学校社会科「国や地方公共団体の政治」の単元において，多角的に考え，選択・判断する力を養う指導法の研究** －二つの共感の側面を生かして様々な立場で感じ考える活動を通して－	三浦　健太朗

【2年目研究員研究発表Ⅱ】11:10～11:40

発表会場	研究テーマ	発表者
大研修室（１階）	**④援助希求能力と援助能力を育む指導法の在り方** －中学生を対象とした「ＳＯＳ教育プログラム」の作成と実践を通して－	若杉　知明
中研修室（２階）	**⑤小学校中学年における１人１台の情報端末の利活用に対応した情報モラル教育の実効性を高める研究** －児童が自分のこととして取り組めるプログラムの実践を通して－	工藤　　敦
CAD・CG研修室（３階）	**⑥中学校理科「電流と電圧」の単元において，学習意欲を高める指導法の研究** －学習内容を生徒が日常生活や社会に関連させる活動を通して－	花田　耕平

【2年目研究員研究発表Ⅲ】11:50～12:20

発表会場	研究テーマ	発表者
中研修室（２階）	**⑦中学校における生徒にとって安心感のある学級の形成を目指した指導の研究** －ＨＳＰ傾向への理解を取り入れた教育プログラムの作成と実践を通して－	下山　　翔
CAD・CG研修室（３階）	**⑧小学校５学年における「他者とつながる力」を高めるための研究** －アサーションの考え方を基本とした実践を通して－	山口　　星

次ページからは研究の概要について紹介します

２年目研究員研究の紹介　vol.1

教育相談課 研究員 髙田 秀行

研究主題

小学校高学年の対人関係の適応感を高める研究
－「他者とよりよく関わる力育成プログラム」の作成と実践を通して－

小学校高学年は、特に「**自己肯定感**」が低下しやすい時期と言われています。

自己肯定感が低下すると…

- ●無気力・投げやりな態度が多くなる　「どうせ」「無理」「どうでもいい」「べつに」…
- ●人との関わりに苦手意識をもつ（こわい、無関心、攻撃的、面倒くさい…）
- ●自信がもてない、自分が嫌い、夢や目標がもてない…
- ●物事や相手の言動を否定的・被害的に受け止めてしまう

学習や生活、対人関係にマイナスの影響が出るおそれ…

こんな子供たち、増えてきたように思いませんか？ だからこそ、**自己肯定感** を高めて「自分は大丈夫だ！」「自分にはいいところがあるんだ！」「友達と一緒っていいな」などの、プラスの、前向きな思いを実感できる子供たちを育てることをテーマに研究を進めてきました。

他者とよりよく関わる力育成プログラム

回	学習活動	題材名・活動内容
①	リフレーミング（総合）	「自己肯定感を高めよう！」 ・自己肯定感の意味や高めることの効果、リフレーミングとは
②	リフレーミング（道徳）	「短所は長所～今の自分に自信をもとう！～」 ・前向きなプラスの表現で、短所は長所にもなる！
③	リフレーミング（総合）	「失敗や困難には意味がある～偉人から学ぼう！～」 ・偉人の思考や行動から困難・失敗を乗り越える受け止めを学ぶ
④	リフレーミング（総合）	「心を動かす言葉の力～名言を心に刻もう！～」 ・名言と出会い、自分の心を支え励まし導く力にしよう！
⑤	リフレーミング（総合）	「リフレーミング実践編～受け止め方を変えよう！～」 ・様々な場面でのマイナスの受け止め方を変えるトレーニング
⑥	グループワーク（学活）	「グループワーク①：ペーパータワー」 ・チームワークや意思疎通の大切さ、自己有用感・達成感を実感
⑦	グループワーク（学活）	「グループワーク②：NASAゲーム」 ・合意形成の効果・大切さの実感、所属感や他者理解の促進

① リフレーミングの思考・見方を養う

様々なリフレーミングの学習を通して前向き・プラスの受け止め等を身に付け自己肯定感を高める素地を養う。

自己肯定感を高める

② グループワークの活動を体験させる

自らの役割を果たしながら協力する、話合いによって合意形成する活動等を通して、様々な実感を得る。

所属感・有用感等を実感させる

目 標 ： 対人的適応感を高める

「友達、仲間っていいな」

「自分はできる、役に立つんだ」

２年目研究員研究の紹介　vol.2

特別支援教育課 研究員 佐々木 明子

研 究 主 題

自立活動の時間における指導を核とした「知的障害のある児童の感情理解を促す指導」に関する研究

－対人関係面に課題のある特別支援学級在籍A児への授業実践を通して－

自立活動は個別の目標に沿って指導を行うのが原則ですが、対人関係面に課題のある児童に対して、十分な指導時間を確保することが難しく、せっかく立てた個別の目標が達成されずに、次年度に繰り越されるという悩みを抱えていました。

そこで、感情やコミュニケーションに関する指導を個別で行い、個別で学習したことを学校生活場面で生かすことで、感情理解を促す授業を計画・実践することにしました。

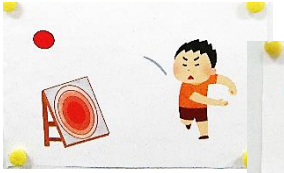
指導目標

①感情を表す言葉について理解する
②自分の感情を理解し、相手に説明する
③「ふわふわ言葉」や相手を傷つけない言葉で伝える

研究方法

1.チェックリスト等を活用した対象児童の現状把握
2.自立活動の指導実践及び各教科等の授業実践
3.自立活動の視点を取り入れた学校生活場面での指導実践
4.チェックリスト等を活用した対象児童の変容把握

「相手の気持ちを察する」「自分の気持ちを説明する」「ふわふわ言葉（相手をほめたり励ましたりする言葉）を使う」といった学習を個別で行い、小集団の場面や学校生活場面で、個別で学習したことを生かすことができていたかを、検証しました。



特別支援学級担任5名に検証授業の前後でソーシャルスキル尺度（小学生用）を実施したところ、「集団行動」「セルフコントロールスキル」等に評価点の上昇が見られました。

２年目研究員研究の紹介　vol.３

義務教育課 研究員 三浦 健太朗

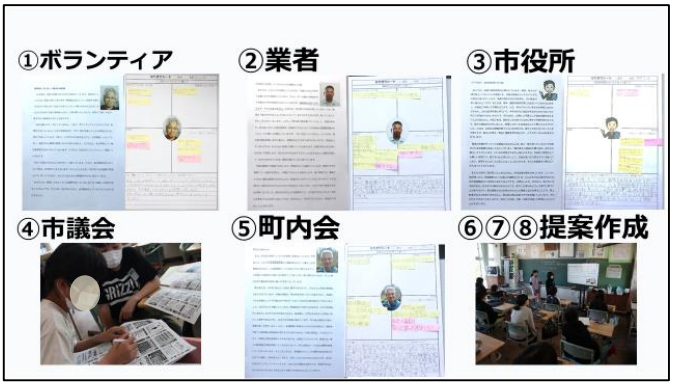
「社会科は暗記教科」と子供から敬遠されるのは、社会的事象をそのまま見せて覚えさせようとしているからではないか。社会的事象を作るのは人。だからこそ人のいる風景として子供に見せることで、「自分が〇〇さんだったら・・・」などと頭で考える（認知的）共感、「〇〇さんを助けたい」などと心で感じる（情動的）共感を学習の中で生かすことができる。そこで、二つの共感の側面を生かすことで、その子らしい選択・判断が発揮されるのではないかと考え、研究をすることにした。

研究主題

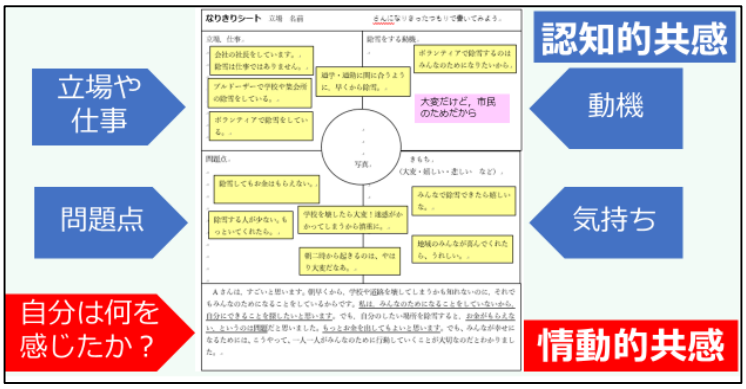
小学校社会科「国や地方公共団体の政治」の単元において、多角的に考え、選択・判断する力を養う指導法の研究

－二つの共感の側面を生かして様々な立場で感じ考える活動を通して－

多角的に考え、選択・判断する力を養うための単元計画や指導方法



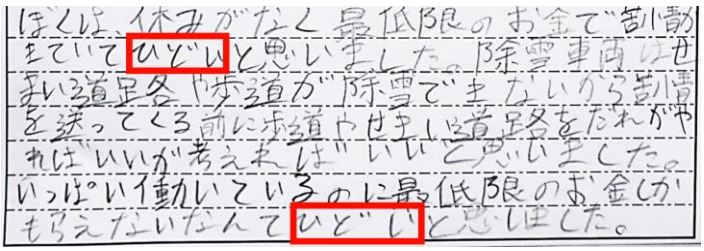
社会的事象として「除雪」を扱う。除雪に関わる様々な立ち場の方々からのインタビュー資料を読み取っていく。

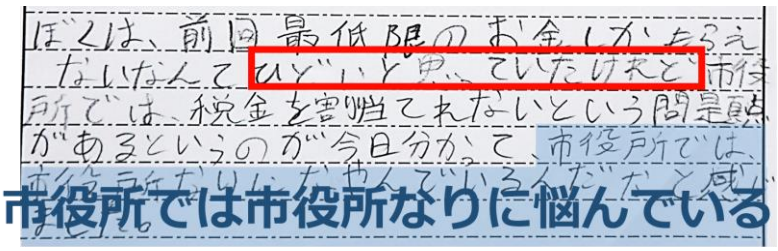


「なりきりシート」を生かして、除雪に関わる立場や気持ちをその人になりきって共感的に理解。振り返りは「私」を主語に、どう感じたかをまとめていく。

検証授業

除雪に関わる金銭的な問題や少子高齢化による人手不足など、それぞれの立場における問題点に出会っていった。その中で、最終的に最も問題だと考えたことを意見としてまとめ、市役所に改善案とセットで提案することをゴールとした。


ぼくは、休みがなく最低限のお金で割り
ていてひどいと思いました。除雪車は せ
まい道路や歩道が除雪できないから苦情
を送ってくる前に歩道や せまい道路をなんか
ればいいが考えれば いいと思いました。
いっぱい働いているのに最低限のお金しか
もらえないなんてひどいと思いました。


ぼくは、前回最低限のお金しかもらえ
ないなんてひどいと思っていたけれど市役
所では、税金を割当てれないという問題点
があるというのが今日分かって、市役所では、
市役所なりに なやんでいるんだなと感じ
市役所では市役所なりに悩んでいる

A男の例。業者が最低限のお金しかもらえない上に多くの苦情がくることに「ひどい」と情意を表現。しかし、市役所にも簡単にお金を渡せない事情があることを知り「市役所では市役所なりに悩んでいる」と共感的な理解へと変化。相手の立場が分かったことで、多角的に考えて選択・判断する重要性に気付いた場面になったと考えられる。

多角的に考える意見文

除雪に関わる様々な立場にたって共感的に感じ、考える活動を繰り返した。

除雪に関わる最も大きな問題についての意見文を書いた際、自助・共助・公助、それぞれの視点から見て、どうしていくべきなのか、多角的な視点で意見文を書くことができた。

成果の中間報告

学習指導要領から評価基準を作成した検証問題の結果、NRT学力テストのどの学力層でも思考力・判断力が向上した。二つの共感の側面が有効であるとの示唆である。

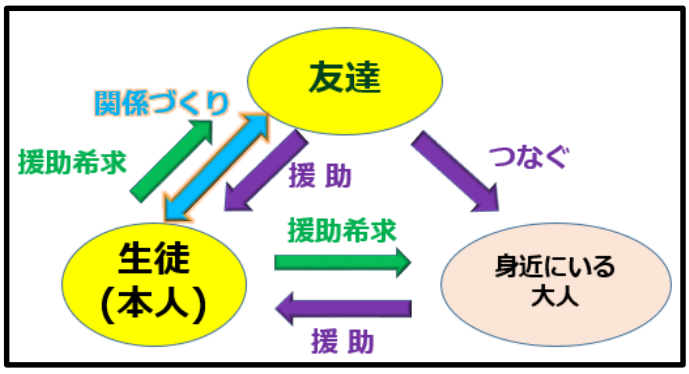
２年目研究員研究の紹介　vol.4

教育相談課 研究員 若杉 知明

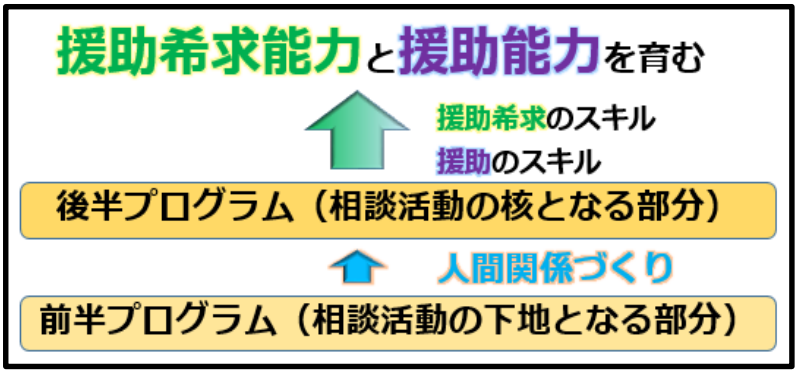
研究主題
援助希求能力と援助能力を育む指導法の在り方
～「SOS教育プログラム」の作成と実践を通して～

悩み事を相談できないために体調を崩したり、学校を休みがちになったりする生徒を担当することがありました。悩み事を相談できずにいる生徒や相談しない生徒が、相談できるようになるために何かできないかと思い、この研究をスタートしました。

研究対象について



SOS教育プログラムの構築



前半プログラム（相談活動の下地となる部分）

時　数	学　習　内　容
1	話す・聴く・伝えるスキル（ＳＳＴ）
2	グループ・アプローチ (情報を組み立てるＧＷＴ)
3	自分を大切に (レジリエンス)

後半プログラム（相談活動の核となる部分）

時　数	学　習　内　容
4	相談すること、しないことのメリット・デメリット
5	ＳＯＳの出し方を考える 相談先を考える
6	ＳＯＳの受け止め方を考える
7	問題を解決する

検証授業の様子

①相談相手を3人（複数人）考える
②相談するときの**最初の一言**を考える
③ペアで援助希求体験をしてみる

生徒が考えた**最初の一言**について
「相談したいことがあるんだけど、後で時間ある？」
「ねえねえ、相談したいことがあるんだけどいい？」

★生徒の感想

・みんなと協力すればいろんな問題点に気づいたり、新しい発見ができたりして、もっといい考えをもつことができると思った。（2時間目）
・相談したいときは抱え込まないで、最初の一言をしっかり伝えるといいなと思いました。（5時間目）
・相談されたときは、アドバイスしたり、感情を受け止めたり、使い分けていきたいです。（6時間目）

２年目研究員研究の紹介　vol.5

産業教育課 研究員 工藤 敦

GIGAスクール構想の進捗により１人１台端末の整備・活用が進められています。一方で、情報機器の所有や使用の低年齢化、情報モラルに関わるトラブルの増加を感じていました。そこで、小学校中学年の児童が情報モラルを自分のこととして捉えながら、より効果を高めることのできる情報モラル教育に関する研究を進めることにしました。

研究主題

小学校中学年における１人１台の情報端末の利活用に対応した情報モラル教育の実効性を高める研究

-児童が自分のこととして取り組めるプログラムの実践を通して-

主題設定の理由

情報機器使用の低年齢化	・個々の使用実態に大きな差がある ・情報モラルが関わるトラブルの増加	》	中学年から実態に即した情報モラル教育をより推進していく
従来の情報モラル教育	・高学年が中心 ・動画教材の使用、外部講師を招く	》	課題を自分のこととして捉えられる内容に進化させていく
１人１台端末の導入	・新たに指導が必要な事項の増加 ・今までできなかった指導が可能に	》	１人１台端末を活用し、より実体験に近いものにする

実施時間について

特別の教科道徳

日常モラルの基礎
- 道徳の授業としてのねらい
- 情報技術の特性は多岐に渡る
- 扱える内容が限定的になる

情報モラルの新たな課題への対応

本研究における検証を行う時間 **特別活動の時間**に設定

プログラムの内容

日常的な指導が可能なもの

例
- ＩＤやパスワードの管理
- 不適切サイトや動画の閲覧
- 著作権や肖像権

▶ ショートプログラム 日常の指導を深める　朝の活動時間　1単位時間15分 ▶

令和3年度		令和4年度	
①	メールの返信の仕方（安全への知恵）	①	共同編集のマナー（情報社会の倫理）
②	パスワードの取り扱い（情報セキュリティ）		
③	検索結果の取り扱い（安全への知恵）		

学校での端末利用に関わらない、補いきれない内容

例
- 迷惑メール対応の仕方
- SNSの利用
- 長時間利用
- 不適切な情報発信

▶ ロングプログラム 日常の指導で補えないもの　特別活動（学級活動）　1単位時間45分 ▶

令和3年度		令和4年度	
①	インターネットやゲームなどの長時間利用について（安全への知恵）	①	SNSでのやり取り【個人間】（情報社会の倫理）
②	インターネットやタブレットなどの利用マナー（情報社会の倫理）	②	SNSでのやり取り【不特定多数】（情報社会の倫理）（安全への配慮）

工夫点①　端末を利用しての体験・疑似体験

動画教材の使用　以前までは体験不可能なもの
→体験や疑似体験を通して、より具体的に場面をイメージし、当事者としての意識をもって取り組ませる。

工夫点②　自己決定の場～他者との感覚の違いに気付く

自ら選択する場面が少ない
→自己決定の場面を設け、理由を話し合う場を作る。他者との違いを感じ、相手意識や情報技術の特性の理解を促進。

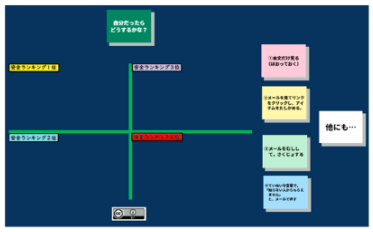
検証授業の実際

ハート＝日常モラル　テクニック＝情報技術　振り返りで児童に意識づけ

令和３年度ショートプログラム①メールの返信の仕方

迷惑メールの特徴について知り、どのように対処すべきかについて考えることができる

- 使用教材　ロイロノート
- 迷惑メールの対処法で、安全だと思う順に並び替え、判断したものが、どのようなことが起きるのか疑似体験した。



令和４年度ロングプログラム①SNSでのやり取り【個人間】

擬似的SNS体験をする活動を通して、情報技術の特性を踏まえたコミュニケーションの取り方について考えることができる

- 使用教材　パドレット
- １対１でのやり取りの中で、誤解の原因や自分だったらどうしたかを考え、相手に上手く伝える方法について考えた。

メールはだめな事と、いい事があるのが分かりました。知らない人からきても削除しようと思いました。メールをやるときは、気を付けようと思いました。

メールは、大変なことがいろいろあるんだと思いました。リンクをクリックするを選んでびっくりしたから、ああいうメールはだめなんだなぁと思いました。

相手が傷ついても、自分が傷ついてないと、すぐトラブルになるから、相手の気持ちを考えてやるのが大切だと分かりました。

自分は、こうやったつもりでスタンプを送ったのに、相手に伝わるかどうか分からないから、スタンプ＋文とか、グッドマークにすればいいと思います。

２年目研究員研究の紹介　vol.6

義務教育課 研究員 花田 耕平

研究主題

中学校理科「電流と電圧」の単元において，学習意欲を高める指導法の研究
－学習内容を生徒が日常生活や社会に関連させる活動を通して－

【理科教育の現状と課題】

国際調査TIMSS（2019）・・・中学2年生世代対象

○理科の知識・技能の平均得点　日本・・・3位　39カ国・地域中

●生徒質問紙（理科への興味関心についての項目）

質問項目	国際平均値	日本平均値
理科の勉強は楽しい	81 %	70 %
理科は得意だ	55 %	47 %
理科を勉強すると，日常生活に役立つ	84 %	65 %
理科を使うことが含まれる職業につきたい	57 %	27 %

平成30年度全国学力・学習状況調査質問紙調査

	理科の勉強は好き		理科の勉強は大切		理科の授業が分かる		理科は役に立つ	
小6	83.5%	-20.6	85.4%	-14.5	89.4%	-19.3	73.0%	-16.9
中3	62.9%		70.9%		70.1%		56.1%	

令和4年度全国学力・学習状況調査質問紙調査

	理科の勉強は好き		理科の勉強は大切		理科の授業が分かる		理科は役に立つ	
小6	79.8%	-13.4	86.5%	-9.4	88.5%	-13.1	77.3%	-15.5
中3	66.4%		77.1%		75.4%		61.8%	

令和4年度は，平成30年度に比べて，中学校ではどの項目でも改善傾向にあるが・・・

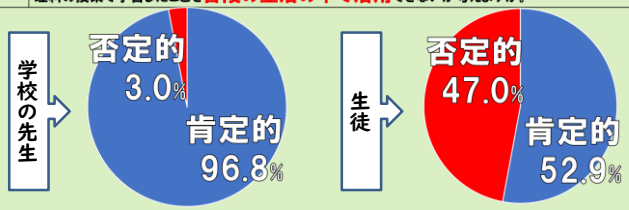
・日本は国際平均に比べ,学力は高い一方で,理科への興味・関心が低い。
・理科への興味・関心の質問項目に肯定的に答えた割合を見ると,小学校との差が大きい。

中学校での理科への学習意欲を高め,もっと理科の楽しさや有用感を！

【学習意欲を高めるための手立て】

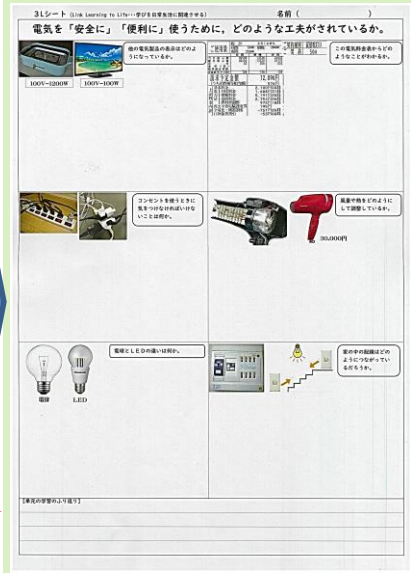
令和4年度全国学力・学習状況調査質問紙（中学校）

学校	理科の指導として，前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。
生徒	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。



先生は学習内容と日常生活や社会との関連について扱っているが,約半数の生徒が考えていない・・・。

学習内容を生徒自ら日常生活や社会に関連させる手立てが必要！



「3Lシート」を開発！

・「Link Learning to Life」（学習内容を日常生活や社会に関連させる）より命名

・生徒自ら関連させられる工夫がたくさん！
- □ 身のまわりのものの例
- □ 考える方向性の例
- □ 単元を通して考える視点
- □ 友達との交流

・毎時間の終末で関連させたこと,疑問,気付きなどを生徒自ら記入する。

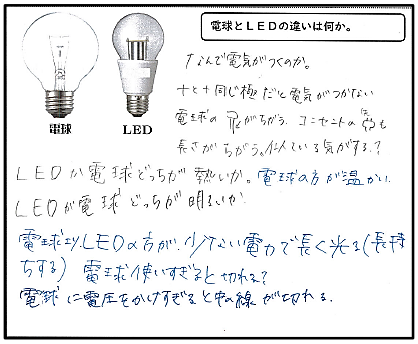
【検証授業の様子】

＋

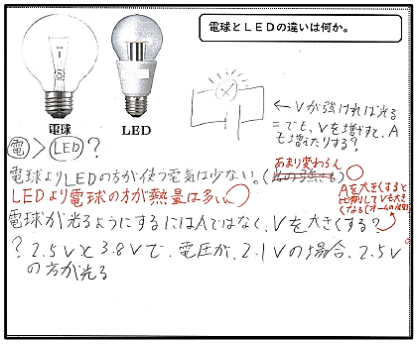
生徒が学習内容を日常生活や社会に自ら関連させられないか考える

【生徒の記述例】・・・黒字以外に自分の記述の種類で色分け

友達との交流で得た学び→青字



過去の記述の追加，修正→赤字



【単元終了後の振り返り】

何を書けばいいかわからなかったけど,授業を受けたり,みんなで意見交流したりするうちに新しく知ったことを書きたいと思えるようになった。

黒や青や赤が増えていってちゃんと学習できていたという実感が湧いて嬉しいです。

２年目研究員研究の紹介　vol.7

教育相談課 研究員 下山 翔

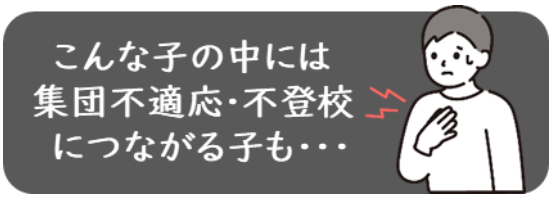
研究主題

中学校における生徒にとって 安心感のある学級の形成を目指した指導の研究

ーHSP傾向への理解を取り入れた教育プログラムの作成と実践を通してー

現場での経験から

・活動に時間がかかり、集団行動が苦手な子
・集団での生活に疲れや居心地の悪さを感じている子
・怒っている人が怖いと訴えてくる子
・他の子以上に大きな音を苦手とする子



本研究の着目点 ～敏感さの高い子～

HSP・HSC（Highly Sensitive Person/Child）

・「感覚処理感受性」が高く、いろいろな**刺激に対して敏感な人**を表す概念。
・およそ5人に1人の割合で存在し、**①考えの深さ、②刺激に過敏、③共感性の高さ、④些細なことに気付く、という4つの特徴**があるが、障害や病気ではなく**生まれ持っての気質**であるとされる。
※ただし、思春期にはHSPではない子でも、敏感さや繊細さが増すとされている。
・**不登校など不適応を起こしやすい気質**であるとも言われているが、**安心できる環境の中では、適応感が向上する**ことも指摘されている。

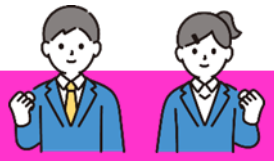
本研究のねらい ～ゴールは「安心感のある学級づくり」～

繊細さや敏感さを理解するためのプログラム

＋

従来のグループ・アプローチ
・社会的スキルの習得（SST）
・安心感づくりの活動（SGE等）

→



安心感のある学級

検証プログラムの作成＆検証授業の実践

繊細さを理解し だれもが安心できる
学級 づくり プログラム

SDGづ

1 繊細な感覚は人それぞれ

2 ストレスに負けないココロ

3 コミュニケーションの力を高めよう

4 安心できる学級をみんなで

検証授業では、研究協力校の中学校2年生を対象に、学級活動の時間（50分）を使ったロングプログラムと帰りの会の時間（10分）を使ったショートプログラムを実施しました。

	時 間	内 容【前半】
1	ロング①	HSP傾向・敏感さの理解
2	ショート①	ストレスコーピング①：ストレスへの対処
3	ショート②	ストレスコーピング②：呼吸法と弛緩法
4	ショート③	考え方のクセの理解
5	ショート④	リフレーミング
6	ロング②	自分の「強み」の発見と活用
7	ショート⑤	アンガーマネジメント①：怒りの仕組み
8	ショート⑥	アンガーマネジメント②：怒りへの対処

	時 間	内 容【後半】
9	ロング③	自分の「安心」探し
10	ショート⑦	アサーション①：気持ちの伝え方
11	ロング④	上手な話の聴き方 グループで協力して解決する
12	ショート⑧	学級や友達の良いところ探し
13	ショート⑨	アサーション②：上手な頼み方
14	ショート⑩	アサーション③：上手な断り方
15	ロング⑤	友達の良さや感謝の伝え合い

２年目研究員研究の紹介　vol.8

教育相談課 研究員 山口　星

研究主題

小学校5学年における
「他者とつながる力」を高めるための研究
ーアサーションの考え方を基本とした実践を通してー

思春期のはじまり　高学年　～より高まる他者意識～

〇主要な友達の固定化が始まる時期。中学年までの友達関係にも変化が…
〇他者と自分を比較して自分に自信がもてなくなることも…
〇集団の中で人間関係をうまく築けず、中学校生活への不安を抱きながら生活している児童も少なくない…

小学校高学年でのコミュニケーションの在り方は
その後の学校生活や対人関係への影響も大きい

高学年児童に身に付けさせたい力　～他者とつながる力～

他者とのつながりを築く大切さの理解 ＋ **具体的なコミュニケーション** ＝ **他者とつながる力**

本研究の取組　～他者とつながる力を高めるための手立て～

①**アサーションの考え方の理解・スキル習得**
⇒ 高学年としてより良い人間関係を築いていくコミュニケーション教育

②**学校行事との関連（アサーションの活用）**
⇒ 学んだアサーションが発揮される場を意図的に設定

アサーションとは!?

アサーションとは、簡単に言うと**「自他尊重のコミュニケーションの方法」**のことです。**【自分も相手も大切にする】というアサーションの精神は、多様性の尊重が叫ばれる現代社会において非常に重要**で、各分野で注目・活用されています。

本研究では、アサーションを「他者とつながる力」を高める手立てとし、**【多忙な教育現場でアサーションをどう指導していくか】【その指導の効果をどう持続・定着させていくか】という視点**のもと実践計画を立て、その教育プログラムを小学校5学年を対象に実践しました。

※研究内容の詳細は、それぞれ「あおもり教育研究発表会2022」でお伝えします。ぜひ御参加ください！